

■旧赤松家記念館 回顧展
『赤松登志子と子どもたち』 P1～2
■文化財を守る 文化財防火デーin 旧見付学校 P3
■旧見付学校 展示情報 P4
■コラム『学校給食のはじまり』相浦正裕 P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和7年2月3日発行

旧赤松家記念館 回顧展

赤松登志子と子どもたち

～赤松家にとっての長女・登志子～

日時:開催中 ～3月30日(日)まで 9:00～16:30



展示室風景

休館日:2/3(月)、10(月)、12(水)、17(月)、25(火)
3/3(月)、10(月)、17(月)、21(金)、24(月)
場所:旧赤松家記念館 米蔵 (見付3884-10)

本年は赤松家長女・登志子の没後125年に当たります。これを契機として、昨年の『森鷗外と赤松家』展の続編となる展示を開催しています。是非、ご鑑賞ください。



前回の展示についてはコチラ

はじめに

森鷗外(※1)は、友人・賀古鶴所(※2)から届いた元妻・赤松登志子の訃報に、下記のように記しています。

嗚呼、是れ我が旧妻なり。於菟の母なり。赤松登志子は、眉目研好ならずと雖も、色白く丈高き女子なりき。和漢文を読むことを解し、その漢籍の如きは、未見の白文を誦すること流る如くなりき。同棲一年の後、故ありて離別す。

(『鷗外日記』より)

登志子の思い出として、「和漢文の内容をよく理解し、初見の漢文を流れるようにスラスラと読む人であった。」と鷗外は敬服、回想しています。

鷗外の最初の妻として、また、子を持つ母であった赤松登志子の生涯とその子どもたちを、赤松家に残された記録などから回顧します。



赤松登志子 (18歳)

※1 森鷗外 本名・森林太郎 1862～1922 陸軍医としてドイツへ留学。帰国後、明治22年(1889)に、海軍中将・男爵の赤松則良の長女・登志子と結婚。結婚生活は1年半ほどで離婚に至った。「舞姫」の発表はこの結婚生活の間のことであった。

※2 賀古鶴所 1855～1931 浜松藩出身の医師、歌人。東京大学医学部在籍時、寄宿舎で森鷗外と同室であった。卒業後も交流が続き、明治39年(1906)に2人は短歌会を興している。『舞姫』に登場する主人公の親友・相澤謙吉は賀古鶴所がモデルといわれている。

文化財を守る



文化財防火デー in 旧見付学校

文化財防火デーに伴い、1月26日に国の史跡でもある旧見付学校で防火訓練をおこないました。

当日の訓練の様子、火災から文化財を守る備えを紹介します。

文化財防火デーとは

文化財防火デーは昭和24年1月26日に現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県）の金堂の一部が火災により焼損したことがきっかけで制定されました。

制定以来、全国で文化財防火運動が展開され、文化財課でも、消防署、旧見付学校のボランティアスタッフの皆さんと共に消防訓練をおこなっています。

訓練の様子

当日は、旧見付学校周辺で火災が発生し、延焼の恐れがあるとの想定のもと訓練をおこないました。

119番通報、見学者の避難誘導、ポンプ車、放水銃、水幕ホースによる放水訓練を実施しました。

火災発生からの通報からの一連の行動を、実際に体験しながら確認することで、より理解が深まりました。



はしご車からの放水



水幕ホースによる放水



放水銃

火災から文化財を守る備え

旧見付学校では、放水銃のほか、火災報知器、消火器、消火栓などを設置して火災への備えをしています。また、防犯カメラや敷地内の巡回によって安全の確保・点検をおこなっています。

防災への正しい知識と設備を備え、災害から地域の宝である文化財を守り後世へと伝えるべく、保護に取り組んでいきます。

旧見付学校 展示情報

旧見付学校では、小学生・中学生による『図工美術作品展』を開催しています。旧見付学校を描いた作品、自分自身をテーマにした作品を展示中です。



展示の様子

画用紙いっぱい描かれた旧見付学校は力作揃いです。ぜひ、ご覧ください。

【日時】開催中～3月9日(日)まで 9:00～16:30

【場所】旧見付学校 入館無料

磐田市見付 2452-1 (駐車場有)

【休館日】2/3(月)、10(月)、12(水)、17(月)、25(火)
3/3(月)

【問合せ】旧見付学校 TEL0538-32-4511

職員リレー コラム

学校給食のはじまり

相浦 正裕

みなさんは『学校給食』といえば何を思い出しますか。

私の子どもの頃は、給食といえば、仲間と楽しく食べ、おかわり争奪戦をしたものでした。今でも、記憶に鮮明に残っている学校生活で最も大事な時間だったと感じています。そんな給食にまつわる豆知識を紹介します。

実は「学校給食」には記念日があり、毎年12月24日がその日にあたります。昭和21年(1946)に東京都千代田区立麴町小学校で、日本向けの援助物資(ララ物資)の贈呈式がおこなわれたことで、当時の文部省によって定められた記念日です。当時は、学校給食感謝の日と呼ばれ、東京・神奈川・千葉の3都県で給食を開始しています。

それでは、私たちの住む磐田市ではどうだったのでしょうか。実は、それよりも早い昭和初期には開始していたようです。戦争による空襲の激化と食料難の時期があり、一時給食を停止していましたが、昭和23年6月より旧磐田市内の北小、中部小、西小、南小、東小(現在の東部小)の5校でスキムミルクの給食を再開しました。昭和26年2月には同5校において完全給食を実施しています。

現在は、1食344円(中学生)で給食を食べられます。市内の3給食センター、1共同調理場、15単独調理場で、栄養教諭を筆頭に給食に携わる職員が、安全安心な給食の提供に努めています。



昭和34年 磐田中部小学校の学校給食記念日の様子

編集後記 市HPでは、給食のレシピも掲載しています。今食べたいメニューは『あじのさっぱりしょうがだれ』と『れんこんごはん』です。見ているだけでお腹がすいてきます。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#) [検索](#)

